

代表質問

創 生 市 川



金子 正

国松ひろき

石原たかゆき

大久保たかし

稲葉 健二

加藤 武央

松永 修巳

岩井 清郎

キャッシュレス決済 普及促進事業

文化施設利用 者への支援

問 市は新型コロナウイルス感染症の影響により、消費が落ち込んだ市内経済を活性化させるため、スマホのQRコード決済を活用し、購入代金の10%分をポイント付与する「キャッシュレス決済普及促進事業」を実施することである。本事業では、高齢者などキャッシュレス決済に対応できない市民への対応も必須と考えるが、市の認識を問う。

答 国は、コロナ禍における新しい生活様式の一つとして、キャッシュレス決済の利用を推奨しているが、市内には、スマホを持っていない市民やキャッシュレス決済の利用方法がわからない市民も一定数いるものと認識している。そのため、本事業の周知啓発に加え、キャッシュレス決済の利用方法に関する講習会等の実施も検討していく。また、本事業を利用できない市民については、今回の事業の課題と捉え、感染症収束の兆しが見えた段階で、新たな経済対策を打ち出すことができないか検討していく。

新第1庁舎 の 整 備

問 新第1庁舎の整備に当たっては、来庁者の安全性や利便性に資するため、庁舎周辺の整備も重要であると認識している。そこで、庁舎周辺の整備について市の考えを問う。また、管理系部門は令和2年8月、市民サービス部門は3年1月から新第1庁舎にて業務開始となるが、1月の業務開始前に、市民が誤って新第1庁舎に来庁した場合、どのように対応する予定か。

答 新第1庁舎周辺については、庁舎整備基本構想に基づき、円滑な交通処理と来庁者の安全な歩行空間を確保する観点で整備しているが、庁舎整備完了後は、人の流れが変わること、鉄道各駅からの動線等、新たな問題が発生することもあるため、適宜対応を検討していく。また、3年1月までの間に誤って新第1庁舎に来庁した市民に対応するため、新第1庁舎に「行政サービス端末」を設置し、各種証明書等を発行できるようにする他、担当職員を数名配置し、簡易的な問い合わせにも対応できるようにしていきたい。

公共施設の 利用再開

問 新型コロナウイルス感染症の影響により休館措置が取られていた公共施設は、令和2年6月1日より順次利用再開が始まっているが、施設によって利用制限を設けているとのことである。そこで、利用制限の具体的な内容について問う。また、施設ごとに設備等が異なるため、一律に休館措置を行うことは好ましくないと考えるが、市の認識はどうか。

答 施設の利用制限として、施設内の人数制限、発声により飛沫感染のおそれがある活動やダンス等の密接する活動の制限、窓を閉め切った活動や大きな音の出る活動の制限等を行っている。現在も感染者が確認されている状況に鑑み、当面は、一定の制限を行う必要があると考えている。また、施設の利用再開に当たっては、施設ごとに事情が異なるため、施設を管理する部署ごとに判断基準を考へ、施設の管理者が決定することとしている。今後は、施設利用者に対し、利用再開に向けた様々なリスク対応を理解してもらえよう、丁寧な説明をしていきたい。

私立幼稚園 との連携

問 新型コロナウイルス感染症の影響により、市内の幼稚園で休園措置が取られ、その決定プロセスにおいて、私立幼稚園の園長が希薄に感じる。各園の情報共有や市との連絡体制をより円滑にするため、休園等の決定プロセスに私立幼稚園の関与が必要と考えるが、市の今後の方針を問う。

答 これまで公立幼稚園の休園等は、教育委員会が公立小・中学校等とあわせて決定し、この決定を受けて、各私立幼稚園に対して、子ども政策部より情報提供を行ってきた。今後は、子ども政策部において、私立幼稚園の状況や意向を把握し、

児童生徒の 学びの保障

問 市は、新型コロナウイルス感染症の影響により、市内公立小・中学校等の休校措置を行ったが、令和2年6月1日より段階的に再開している。長期の休校による学習の遅れに対し、市はどのように対応していくか。また、再度休校措置を取らざるを得なくなった場合、オンライン学習の実施が有効と考えるが市の方針を問う。

答 年度当初に予定していた学習内容については、原則今年度中に指導できるよう指導計画を見直す他、長期休業期間の短縮、学校行事の精選、時間割の工夫等により、授業時間を確保していく。また、オンライン学習については、9月末頃までを目安に、児童生徒がタブレットに触れ、実際に使用する事ができるよう準備を進めたい。加えて、休校中の家庭でのタブレット使用を見据え、タブレット上で朝の会やホームルームを実施したり、授業における学習ポイント等の動画を見た後に、適応問題の解答を行う等の取り組みを行いたいと考えている。

子どもの 体力向上

問 令和元年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、子どもたちの体力の低下傾向に拍車がかかっていることが判明した。市は子どもの体力向上に関し、どのような課題があるかと認識しているのか。また、子どもたちが公園でボール遊びができるよう、環境整備が必要と考えるが、市の認識について問う。

答 社会環境等の変化に伴い、スポーツをする子どもとスポーツをしない子どもの二極化が進んでいる。子どもたちがスポーツをする機会を充実させ、本市のスポーツ教室やクラブへの子どもたちの参加者を増やしていくことが課題であると認識している。また、公園における大勢でのボール遊びは、公園利用者の安全な利用を確保するため多くの公園で規制しているが、安全にボール遊びができるよう利用方法を検討していきたい。



ボール遊びができる公園整備を

市民の声を届ける会

かつまた竜大

中町 けい

つちや正順

不妊治療

問 不妊治療は経済的な負担が大きく、共働きを継続しなくてはならない人も多く、仕事と治療の両立を

考えるが、本市の取り組みについて問う。

答 不妊治療は、精神面や体力面での負担も大きく、治療時間や通院時間など1回の治療に時間を要し、長期間にわたり治療する人もいることから、仕事と治療を両立していくためには、職場の理解も必要である。そのため、厚生労働省が作成しているリーフレット等を活用して不妊治療について広く周知していくことで、治療を受ける人の経済的支援だけでなく精神的支援を図っていきたい。